

## 小諸東中学校 学校だより

令和5年10月31日



## 前期の振り返りと後期に向けて

10月20日に前期終業式及び後期始業式が行われました。各学年の代表生徒が前期を振り返りとともに、後期への抱負を発表してくれました。

## 「前期の振り返りと後期に向けて」 3年3組 野村 悠人 さん

私は、前期で心に残ったことが2つあります。

1つ目は、勉強です。3年生の夏休み明けから、定期テストが総合テストに変わり、難易度が格段に上がりました。私は定期テストの時よりも勉強量や時間を増やし、何としてでも点数をキープしようと努力しました。しかし、結果は定期テストの時よりも大きく点数が下がってしまいました。志望校に合格できるように、これから勉強量や時間をさらに増やし、点数を上げられるようにしたいです。

2つ目は、白梅祭です。私は、今年、クラスの指揮者になりました。最初はできるか不安でしたが、だんだんと練習していくにつれて自信がもてるようになってきました。クラスのみんなも、去年賞がとれなかったことから、「今年は、何とか賞をとりたい」と言っている人が多くいました。そうは言うものの、練習では、やる気がある人よりも、やる気がない人の方が多い、気持ちがバラバラの状態でした。白梅祭当日が近づくにつれて少しずつ気持ちがまとまってきましたが、それでもまだ十分ではありませんでした。そして、迎えた音楽祭当日。前日の体育祭が思うようにいかず、悔しい思いをしたせいか、みんなの気持ちが一気にまとまりました。当日の練習にも、とても気合が入っていました。そして、本番、私も自信をもって指揮をすることができ、今までで最高の合唱をすることができました。私は、この白梅祭を通して、無理だと思ふことでも、みんなの力が合わされば何でもできると思いました。

これからの後期に向けて、私は勉強を頑張っていきたいです。なぜなら、受験まで半年を切り、総合テストも残り少なくなってきたからです。日頃から、少しずつコツコツと積み重ねながら、勉強していきたいです。そして、受験に向けて、クラスの仲間と一緒に、学習に向かう雰囲気をつくっていききたいと思ふます。

後期の学校生活、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

## 「後期に向けて」 2年3組 竹内 瑠菜 さん

小諸東中学校に入学して、早くも1年半が経ちます。

私が2年生の後期に力を入れたいことは、読書です。理由は、語彙力を高めたいからです。実際、この作文を書いている中でも、自分の思いを一番伝えられる言葉が見つからず、悩みました。私は前期に漢字検定を受けました。語彙力が問われる問題が多く、分からないものがいくつもありました。例えば、懐古園の懐古という言葉は、言葉自体は知っているけれど、言葉の意味や使いみちが合っているのか分かりませんでした。試験中に、もっとたくさんの言葉を知っておけば良かったと痛感しました。

この対策として「本を読むこと」が良いと思ふます。日本文学なら作者が生きていた時代の言葉の言い回し、フィクションなら時代によって変わった言葉を知ることができると思ふます。語彙力が高まれば、初めて読んだ文章がより深く理解できたり、書ける漢字も増えてたりするとおもいます。また、日常生活でも分からない言葉が出てきた時には、すぐに調べることも語彙力を高める方法の一つだと思ふます。

後期では、今までよりも進んで本を読んでみようと思ふます。

## 「前期の振り返りと後期への抱負」 1年3組 下島 未歩 さん

私はこの前期の全てを、「新しく、有意義な経験ができた」と思っています。特に大きなことは、学習とフィギュアスケートでした。

まずは学習のことです。追求してきたのは、「自分のためになるノートのとり方」です。真剣に考え始めたのは、最初のテストで高めの点をとったことでした。今は積極的にマーカーを使うなどして、自分のためになるノートをとっています。また、今の私は、共に授業をする仲間との適切な関わり方に試行錯誤しています。周りにどう入っていくか、周りをどうまとめるか、日々追求していきたいです。後期も、日々の一つ一つの授業を大切に取り組んでいくことが目標です。

次に、学習とともに全力でやってきたフィギュアスケートのことです。ここまでで特に大きな経験と言えることは8月末に6級に合格して出場した関東ブロック大会でした。私にとって初めての公式試合でした。会場の雰囲気からの緊張で、自己最高の内容には届きませんでした。しかし、今の私は、約20日後の全中予選のことを考えています。同じクラブの選手たちに勝つため、まずは「自分に勝つ」という気持ちでのぞみたい思ふます。

後期も、学習とスケートの両立がますますいそがしくなるとおもいます。日々、向上心をもって過ごしていきたいと思ふます。

3名の生徒の発表に続いて、滝澤校長先生より、次のようなお話がありました。

今、各学年の代表生徒の皆さんから、前期の振り返りと後期に向けた作文を発表していただきました。120日間にわたる学校生活の中で、感じたこと、成長したこと、今後の課題等について、わかりやすく話をしてくれました。

令和5年度の前期を振り返ってみると、一つの大きな転換点は、3年余りにわたって続いていたコロナ対応が5月8日をもって、5類（インフルエンザ対応と同様）となったことではないかと思えます。今まで、登下校を含め、学校生活の全ての場面で、何か制限があり、とても窮屈な生活を送ってきました。このことは皆さんも感じていたと思いますが、先生方も、悶々とした思いを抱きながら、日々過ごしていたと思います。特にマスクを着けての生活は、私たちのコミュニケーションの取り方にも影響を及ぼしたのではないかと感じています。そのような3年余りを乗り越え、6月からは中体連の大会、吹奏楽コンクールなどが始まっていきました。全校で取り組む壮行会の迫力のある応援は、選手の背中を押してきたと思います。7月末からは、中校舎の大規模改修工事、学年行事や学年総合が行われました。事前準備や当日の動き、そして、活動後の皆さんの姿をみて、**着実に小諸東中の生徒は成長、そして、前進している**と実感できる場面がたくさんありました。



また、今年の夏は酷暑が続き、長野県、佐久管内でも30度以上の真夏日が約80日もあり、体調の管理も課題となりましたが、みんなで乗り越えてきたと思います。そして、夏休み明けには70回目の白梅祭に向けて、校舎のあちこちから歌声が響いてきました。学年での交流や練習を重ね、日に日に完成度を増していく様子は、本当に素晴らしいと感じました。白梅祭当日は、来賓や保護者の皆様にも、頑張っている姿、成長した姿を見ていただくことができました。

さて、日々の授業について振り返ってみましょう。何か分からないことがあったら、そのままにせず、先生方やグループ、近くの仲間と対話しながら進めていますか。分からないことを、分かった振りをしてはいませんか。

先日、佐久地区の教育課程研究協議会で、本校の榎澤先生が2年2組の皆さんと共に、技術科の授業を行いました。自分が30歳を迎えた時の安心・安全で快適な電気機器の配置やコンセントの位置について、様々な角度から調べたり、友だちと情報交換したりしながら、未来の生活について学習を深めていました。8月30日の校長講話でも話をした「**今を積み重ねた先にある未来を創造する**」そんな取り組みを想起させる内容でした。

後期に向けて、より一層、主体的に人・もの・ことと関わりながら自分自身を成長させていきましょう。

#### ◇アンガーマネジメントとは ～怒りの感情との付き合い方～（10月24日）◇

スクールカウンセラーの渡邊美奈子先生から、アンガーマネジメントをテーマにお話をいただきました。怒りは人間にとって自然な感情の一つであって、怒りのない人はいない。「怒りをコントロールできる人」を目指すのが、アンガーマネジメントです。渡邊先生が紹介してくれたアンガーマネジメントの方法の例を参考に、子どもたちはどのような対処方法を考えたのでしょうか。私は、「6秒ルール（6秒待つ）」と「リフレーミング（違う角度や視点から考えてみる）」を実践しています。ご家庭でも話題にしてみてください。

#### <舗装工事に関わるお知らせとお願い>

11月13日（月）から11月21日（火）に本校校庭西側の桜並木の舗装工事が行われます。工事期間中は片側交互通行となり、そのうち1日は全面通行止めとなります。施工時間は8:30～17:00で、時間外は交通規制解除となります。なお、全面通行止めは登下校の時間帯をさけた昼間に行われますので、朝夕の送迎には影響はありません。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

（小諸東中学校 教頭 友野裕一）